

〈科学史、工業史〉

Wiley Digital Archives

英国科学振興協会アーカイブ：科学史コレクション 1830-1970年
British Association for the Advancement of Science:
Collections on the History of Science (1830s-1970s)

Wiley Digital Archives としてリリースされた英国科学振興協会 (BAAS) アーカイブは、近代科学史に関する学際的な、複数機関にまたがる資料のコレクションとして、類をみないデータベースです。収録資料の90%以上が、今回初めて目録、デジタル化されました。ダーウィン (1809-1882)、ラムゼー (1852-1916) など、英国の科学が世界を牽引するにいたる資料を収録。科学者の視点による資料を、科学史の第一線の研究者が編纂しています。

British Association for the Advancement of Science (BAAS) 英国科学振興協会：

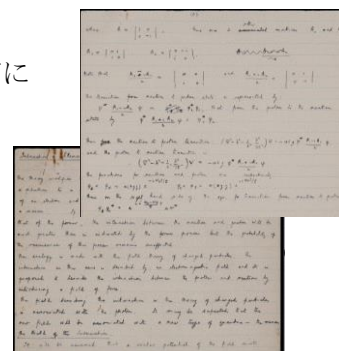
1831年に設立され、科学を、単なる豊かさへの追及ではなく、社会や経済の発展の中心に据える活動に取り組んできました。イギリス国内の各都市が持ち回りで、年に1回ずつ開催された学術大会は、新しい理論、発見を議論し、発表する場に。19-20世紀の英国科学者をひきつける学術協会として、1928年には王室に認可された。2009年にBAASは、British Science Association (BSA) と名称を変更し、社会、文化、教育における科学の普及活動を推進している。

～英国科学界と日本のつながり～ Henry Flint papers コレクション

物理、化学、数学等の講義ノートや定期テストの回答等、大学での科学教育に関連する資料を収録

例：ロンドン大学の物理学者 Henry Flint が中間子理論を講義用にまとめたノート →

湯川秀樹に加え、坂田昌一、武谷三男（湯川の共同研究者／素粒子物理学）の名前も記載されている



価格表

同時アクセス無制限 FTE(教員+学生数)により価格が異なります。ご契約の際は、所属機関のIPアドレスが必要です。

購入型 ◆完全買い切り (アクセスフィー無料)

| | |
|----|------------|
| 価格 | お問い合わせください |
|----|------------|

- 原価の改定、為替相場の変動などの理由による価格の変更や掲載タイトルの変更につきましては、予めご了承の程お願い申し上げます。掲載製品は、リバーチャージ対象製品です。
- 正式なお見積もりは、別途ご用命ください。

裏面に降に続きます→

(John Wiley & Sons, GBR / 丸善雄松堂株式会社)



British Association for the Advancement of Science: Collections on the History of Science (1830s-1970s)

◆収録資料

報告書、原稿資料、新聞の切り抜き、写真、パンフレット、カタログ、現地報告書と議事録、地図、年次報告書、個人文書、灰色文献、書簡、日記、美術品、イラスト、雑誌原稿、講演会、フィールドノート、エフェメラ など

◆主題

科学の専門化、産業革命、科学と政治、科学教育、科学に関する法律・政策、科学界における女性、通商貿易、国策としての科学、英国連邦における科学、発明、科学と起業、植民地研究、ポスト植民地研究、脱植民地研究、第一次・第二次世界大戦における科学、コミュニケーション技術の発達 など

◆分野

農業、天文学、植物学、地質学、生物学、生理学、化学、経済学、工学、工業デザイン、数学、気象学、物理、地政学、科学、結晶学、光学、氷河学、地震学、土木技術、力学 など

<収録コレクション 一例>

The BAAS Collection 英国科学振興協会 (BAAS) コレクション ■収録ページ：約 20 万ページ

英国科学振興協会 (BAAS) コレクションは、科学を専門的領域として社会的に確立し、英国を科学の世界的な競争力のある中心地とするための英国科学界の努力が記録されています。

19 世紀初頭以降における英国科学界を支えた数多くの著名な人物が、英国科学振興協会 (BAAS) に、歴代会長などとしても関わっていました。

■1831 年－1970 年代の年表つき

■1900 年代－1940 年代 BAAS 年次学術大会の報道、招待状、ノート、写真などを収録

British University Collection 英国大学コレクション ■収録ページ：約 80 万ページ

英国国内の 10 の大学から集められた英国大学コレクションには、19 世紀から 20 世紀初頭の英国科学界における重要な科学者の手稿、論文、通信などが収められています。

資料提供機関例：

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン

リーズ大学

ロンドン大学

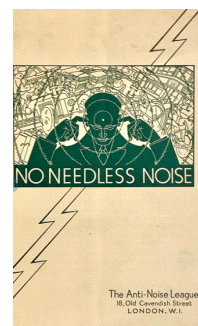
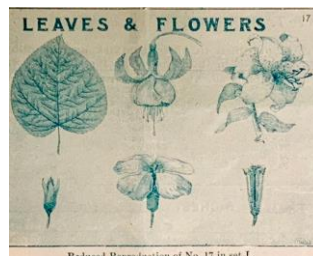
上院議会図書館

リバプール大学

ケンブリッジ大学

エクスター大学

グラスゴー大学



British Association for the Advancement of Science— Collections on the History of Science (1830s-1970s)

～ 綺羅星のごとく多くの科学者の研究成果を網羅 ～

◆ウィリアム・ラムゼー（化学）1911-12年 BAAS 会長 1904年ノーベル化学賞受賞

4つの希ガスを発見：キセノン、ネオン、クリプトン、ラドン

◆ノーマン・ロッキヤー（天文学）

太陽スペクトル中に未知のスペクトル線を発見し、新元素にヘリウムと命名
総合学術雑誌「ネイチャー」を発刊し、50年間その編集に携わった

◆キャスリーン・ロンズデール（結晶学）

◆チャールズ・ダーウィン（博物学）

◆トーマス・ヘンリー・ハクスリー（生物学）

◆チャールズ・ウィートストーン（物理学）

「話す機械」も研究

◆サミュエル・トランスキー（光学）

◆ジョン・バードン＝サンダーソン（生理学）

◆チャールズ・ライエル（地質学）

◆ウィリアム・フェアベアン（土木技術）

R.ステューヴンソンと共にメナイ海峡の鉄道橋(tubular bridge)架設に関わった

息子は、マンチェスターで世界最初の美術博覧会を成功させたトマス・フェアベアン

小説家エリザベス・ギヤスケル/ウィリアム・ギヤスケル夫妻との親交もあった

◆オリバー・ロッジ（物理学）

電波の検波器の研究を進め、無線電信の受信機（コヒーラ）を開発。熱、エーテルも研究

◆ケルビン卿 ウィリアム・トムソン（物理学）

カルノーらの理論を発展させ、絶対温度目盛りを導入。「ケルビン」（単位）はこの人物にちなむ

◆チャールズ・バベッジ（数学）

「コンピューターの父」ともよばれる

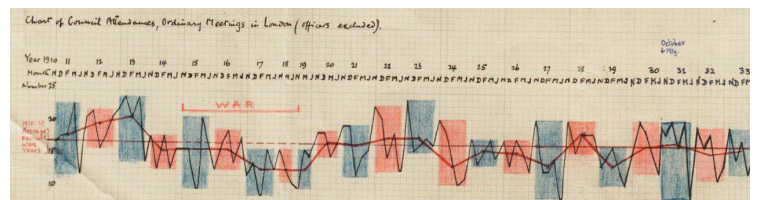
ミネソタ大学（米）Charles Babbage Institute(情報技術研究所)は、彼の名から名付けられた

◆ウィリアム・ヒューウェル（科学）

◆ヘンリー・ブラッグ（物理）

放射線を研究。1915年、息子（ローレンス・ブラッグ）とともに父子でノーベル物理学賞受賞

◆チャールズ・ホイートストン（物理）

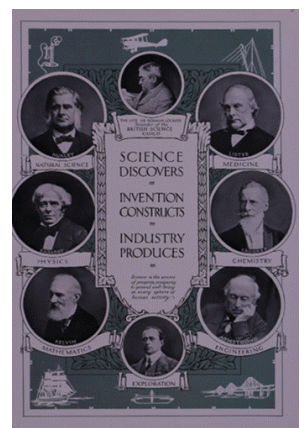


◆マイケル・ファラデー（1791-1867）

右資料：左側 真中の人物 →

英国の物理学者・化学者。塩素の液化、鉄の合金、ベンゼンの発見などに成功。
ファラデー効果、ファラデーの法則も知られる。

ファラデーが英国王立研究所で 1860-61 年に子ども向けにおこなった 6 回の
クリスマス講演を収録した『ロウソクの科学（The Chemical History of
Candle）』（1861）は、日本のノーベル賞受賞者（吉野彰さん、大隅良典さん）ら
多くの科学者にも影響を与えた本として、日本でも多くの関連書籍が刊行されて
いる。





英国科学振興協会 (BAAS) アーカイブ 編集陣 ～ 科学史分野で活躍する著名な研究者 ～

Robert Fox *Emeritus Professor of the History of Science University of Oxford*

Omar Nasim *Professor for the History of Science Universität Regensburg*

Gregory Radick *Professor of History and Philosophy of Science University of Leeds*

Alex Hall *Department of Theology and Religion Research Fellow University of Birmingham*

James Poskett *Assistant Professor in the History of Science and Technology University of Warwick*

Wiley Digital Archives は、Wiley が提携している世界各国の有力な学協会・図書館・資料館などが所蔵する歴史的な価値の高い一次資料をデジタル化したデータベースです。これまで目に触れる機会の少なかったこれらの資料は、最新の研究成果を裏付ける資料として、過去に公刊されてきた文献を研究者がより深く理解し、緻密に解釈するための大いなる助けとなることが期待されます。

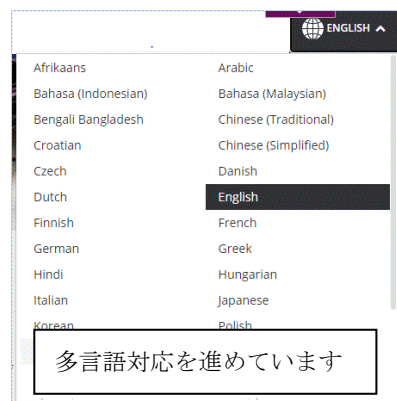
インターフェイスの特徴

- 活字文書は全文検索可能
- OCR で読み取ったテキストをダウンロード可能
- 単語の出現頻度などをグラフ化する分析ツール
- 文献を年代によって絞り込み
- 統計データなどの表を Excel 形式でダウンロード
- 検索でヒットした文献の出版地を世界地図上で視覚的に表示
- ヒットした文献中の頻出後をテキスト分析で抽出
- 表示言語を英語・日本語・中国語・スペイン語等から選択可能 →

※ OCR は活字媒体のみの搭載です

※ 資料によっては一部印刷・文字等が不鮮明な箇所がございます

※ 動画は収録されていません



無料トライアル受付中

- ◆ トライアル期間は個人・機関とも、1ヶ月間です。
- ◆ 下記の項目を E-mail: e-support@maruzen.co.jp までご連絡ください。
お名前 (ふりがな/アルファベット表記もご記載ください)、ご所属、ご連絡先(E-mail)、
トライアル希望タイトル、IP アドレス(図書館からお申し込みの場合)、希望開始日
- ◆ お申し込みから設定まで4-5日かかる場合がございます。
- ◆ トライアルのお申し込みは、原則として大学・研究機関の専任教員・職員に限定させていただきます。
学生・大学院生の方は、図書館員・担当教員を通じてご依頼ください。
- ◆ 個人情報のお取り扱いについて：
ご記入いただいた個人情報は、お申し込みトライアルの設定、ならびに弊社よりの商品・催事のご案内に際してのみ使用いたします。弊社の個人情報保護方針につきましては、弊社ウェブサイトをご覧ください。
<https://yushodo.maruzen.co.jp/privacy.html/>

今後の案内が不要の方は、トライアル申し込み時に、「商品の案内は不要」「催事の案内は不要」の旨をお知らせください。